

港区の小学校にて出前授業を実施
～海運や船員の仕事について紹介～

当協会は日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力や動画コンテンツの制作等に取り組んでおります。

10 月 24 日（木）、当協会は日本船長協会と協力し、東京都港区立筈小学校の 5 年生を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたのでその模様をお知らせします。同校での出前授業は 2021 年より実施しており、今回で 4 回目となります。

出前授業は 2 部構成で行い、前半は当協会から海運全般のことを、後半は日本船長協会から船や船員について話をしました。

前半では、はじめに日本の貿易量のうち海運が占める割合をクイズも交えて紹介し、船がなくなると日常生活が困難になる例とともに海運の重要性を伝えました。

次に海上輸送手段の一つとして、街中でよく目にするコンテナを題材に説明。児童にコンテナ型の模型を配布し、中に入れた消しゴム（サッカーボール/フライドポテト）をヒントにドライコンテナとリーファーコンテナの違いを考えてもらうとともに、運ぶものに応じて様々な特徴のコンテナがあり、身の回りのほとんどのものをコンテナ船が運んでいることを説明しました。



当協会の出前授業の様子

また、白地図をタブレット上で配布し、児童にサッカーボール（パキスタン産）やフライドポテト（アメリカ産）がどのような航路で日本に運ばれてくるのかを考えて書き込んでもらった後、各航路の正解のルートやパナマ運河の仕組みと役割をアニメーションも交え解説しました。

前半の最後には、児童全員が大きな声で「船長！」と呼ぶ声に応じて日本船長協会の船長が制服姿で登場、拍手と歓声で迎えられました。



航路を考えてワークシートに書き込む児童

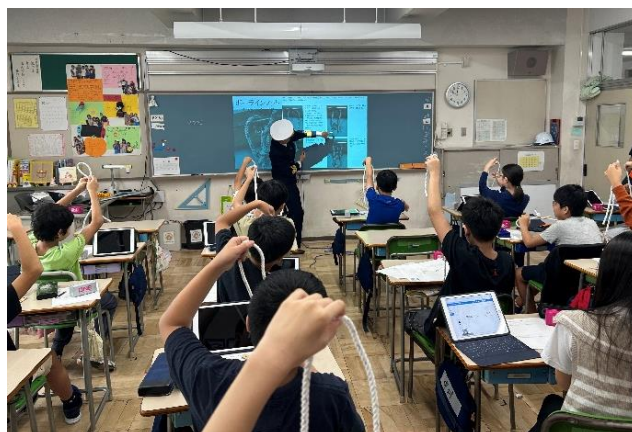
授業の後半は、船長から船の大きさや船を動かすために必要な計器や設備、航海士・機関士の仕事内容や勤務体系、そして国籍など多様な背景をもつ人が一緒に役割分担をして働いていること等について、自身の経験も交えながら説明しました。

また、船内での過ごし方について、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していること、普段は目にできない絶景や多くの海洋生物を見られること、船内の Wi-Fi 環境で陸と連絡も取れること等を紹介。児童は興味深く聞いており、特別な日に船上で供されるご馳走などの写真に驚いていました。

その後、船員の仕事体験の一環としてロープワーク教室を行い、児童たちは船長の実演を見ながら、エイトノットとボーラインノットという2つの結び方を学び、楽しそうに取り組んでいました。



船長講話の様子



船長の実演に沿ってロープワークに挑戦

授業の最後には、児童が感想を発表し「99.6%も運んでいるのはすごいと思った」「(船がなくなると)スーパーからものがなくなってしまうに驚いた」等の声が聞かれました。当協会は引き続き、海運の重要性を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上